

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		理念については職員間で確認できるようにしそれに見あった事業所にしていきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		事業所の玄関、ホールに掲示してありまたパンフレットにも理念を載せてあるがなかなか浸透はできていない。家族や地域の人々に理念の浸透が出来てない事を事業所独自の広報誌等を作成し地域との交流を図って行きたい。(現在広報誌作成中)
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		隣の保育園児を招いたり小学生にあそびにきてもらったりして地域の付き合いを広げて行きたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		地域のお年寄りの会合やこども会に顔をだして関係作りをまずは職員が出向いて顔なじみの関係を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者への支援でとどまっておられ地域の高齢者等のかかわりが出来ていない。		ケアサービスの充実を目標にしてきていたので地域の高齢者の暮らしに役立つ事等を今後話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価を職員全員で取り組む事で業務の振り返りが出来た。共通意識を持つ事ができた。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回の開催が思うようにやれなかった。		年間の開催予定を提示し2ヶ月に1回の開催を行うようにしたい。また同じ市町村の地域密着の事業所の運営推進会議にも参加して共有し連携を作る。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録を市役所の市民生活課の介護保険係へ持って行き報告や説明したりしながら連携を密にして運営についてや困難ケース等の相談にも応じて頂いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の主催の外部研修に参加したりして職員の理解を深めるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態確認や自宅での状況把握に努め職員全体が意識し虐待がないか常に注意している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ時は介護支援専門員が自宅に訪問して行っている。その際に十分な説明を行い理解と納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケート用紙を玄関に設置している。定期的に介護相談員の方が訪問されて意見がでたことを運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>介護支援専門員が自宅に訪問時や緊急の時は電話連絡で報告したり、連絡帳や送迎時に家族にお会いすれば詳しく伝達している。</p>	<p>事業所独自の広報誌を作成して「どっこん」での様子や過ごし方を提供していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はもうけていないが運営推進会議の家族代表から聞いた意見を頂き、また利用者の家族から意見要望、苦情が出た場合に対してその事を職員全員に伝達し検討改善に努めるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月全体会議やカンファレンスの時に相談、意見、要望がしやすい雰囲気、関係が築かれている。いつでも職員からの意見、相談を聞けるように心がけている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況や要望に沿えるように合わせた勤務体制や緊急な勤務変更が出来るように必要人数確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者や家族とのなじみの関係は大切なことなのでなるべく移動がないようにしているが異動や離職がやむ得ない場合は利用者様や家族に支障がないように十分引き継ぎたい。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>法人内でマニュアルの整備がなされており、いつでも見れる場所に置いてある。マニュアルは整備されているが完全ではない。</p>	<p>マニュアルの説明によって全職員が理解周知していく必要がある。マニュアルの不足分を整備していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修の参加を促進し勤務調整を行ない研修に参加してもらい質の向上に努めている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会を胎内市、近隣の地域密着型の事業所でのネットワークをもうけて交流の参加に努めている。	3ヶ月に1回程度の交流会、勉強会の、交流会を合わせたネットワークが立ち上がりそこでの他事業所との職員同志の交流を図って行きたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	昼食は交代で休憩室にて休憩したり、喫煙場所を設けたりして気分転換を図っている。管理者、介護主任は職員の話に傾けて聞くように努めて助言、アドバイスに時間を作っている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考査があることにより個々にそれぞれの努力をもって向上しながら働いていけるようになっている。個々の状況をよく把握し業務できるように取り組んでいる	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに本人が困っている事より家族からの介護負担、軽減の理由が多く家族中心の方向の相談に進んでしまう。その中に本人が安心してもらえるように言葉かけを行う事に努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの相談に対して安心して利用されるようにじっくり話を伺うようにしている。家族の望む事とこちらで対応できる事を最初のうちにあらかじめしっかり話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の把握と要望を確認しこちらからの行っているサービス(通い、泊まり、訪問)を適切に考えて支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用をもうけ必要に応じては雰囲気慣れてもらうように設けている。		体験利用が出来る事を提供できるようにした。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の場面で経験豊富な人生の先輩としてお触れることが多くあり、お互いが共有しお互いに支えあう関係が出来るように配慮している		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子は連絡帳や送迎時口頭で伝えるようにしている。ご家族様の話を傾聴し共に支えて行きたい。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人や家族が主体となって暮らしていけるように側面的な立場から支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	たまには知人や親戚の方が来訪してくれる時があるが又家族が洗濯物を取りに来た時など職員はなるべくコミュニケーションをとるように心がけている。又泊まりの利用者が娘に逢いたい場合電話をしてきてもらったりする事もある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の意向を取り入れながら利用者同士がうまくコミュニケーションを図れるように職員が配慮している。仲の良い利用者同士が席が近くに配置したりする		不穏時など個別に対応しご利用者様同士の関係を深めて行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院入所した方にも様子を伺っている。他界された利用者様にはお通夜や告別式に参列させて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホール以外にもベットで休める部屋があり体調に応じていつでも臥床して頂ける。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者、介護支援専門員が中心となって行っている。職員はその資料を熟読している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに合った作業や手伝いの時間の持ち方を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議が利用者全体に行えていないが家族、介護支援専門員でカンファを行っているが全体の担当者会議が思うように出来ていない		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があった場合なるべく早く対応しプランの立て直しに努めていきたいが思うようにできていない。		ご利用者様ごとにプランの再確認はしているが定期的な見直しが行えておらず今後担当制となる為担当する事により身近となり介護職員全体が現状把握に努めよりよい介護計画が作成できるようになる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送り時に状態変化等伝達事項が送られている。業務日誌やバイタル表の特記欄情報を共有している。必ず全職員が確認する事によって連携が保てるように努めている。個人記録を見て流れが把握できるように記入をするように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて緊急な訪問や宿泊サービスを取り入れている。早い時間や夜遅くの延長、食事サービスも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて各関係者に協力して頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護支援専門員が中心となって必要に応じて相談支援の連携をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	介護支援専門員が中心となって必要に応じて利用者のその人らしい生活が送れるように相談支援の連携をとっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医院、病院を把握し適切な医療が受けられるように又、必要時には情報提供したり適切な医療面が受けられるように支援している。その他、協力医療機関との連携も大切にしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	介護支援専門員や管理者が中心となって努力している。受診の際は職員も同席させて頂く場合もある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	バックアップ施設の看護師、訪問看護師が兼務となっているので相談、勉強、指示をもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は面会に行く回数を増やして安心してもらい病院関係との情報交換、相談にも努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護支援専門員が中心となりご本人、家族の意向を尊重し主治医との連携をとりながら訪問サービスを入れながらより良い過ごし方が送れるように支援している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護支援専門員、管理者、介護主任が家族、本人とも話し合い今後の対応について検討し最期まで在宅で過ごせるように支援している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護支援専門員、管理者が中心となって努力している。施設入所の際は相談員と連携をとりバックアップ施設に提供、相談し面接にも立会い施設見学等行いご本人様が不安なく入所できるようつとめています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の誇りやプライバシーを損なわないように常に心がけて対応している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>『どうしたの?』と話しを聞きその状況を見合わせて利用者によりわかりやすく説明している。自己決定の場面は少なく思う。</p>	<p>利用者の関わりの場面で職員によって個人差があるため『なじみの関係』を作る為今以上の働きかけ、意識の向上が必要である。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の希望に添って支援できるように努力している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>近くの理美容店にご利用者や家族の希望に添って予約依頼して行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節感を取り入れて目でも楽しんで頂けるように努めている。調理の盛り付け、配膳は職員で行っている。食事は声掛けや見守り、介助が必要な事も一緒に職員も食事をしている。出来る利用者が少なく茶碗拭きやテーブル拭きやエプロン、おしぼり洗い等協力して頂いている。</p>	<p>野菜の皮むき等の準備の際一緒に行ったりし『出来る力』を引き出し、張り合いに感じてもらえるように支援していきたい。簡単なおやつ作りが日常的に出来たらと思う。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>泊まり時や通いに好みものを持ってこられた場合は希望状況に応じて提供している。その他お茶を中心とした飲み物、おやつを提供で満足されているように思う。酒、タバコの要望の利用者様は今のところありません。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者状況、習慣に合わせてトイレ誘導を行っている。又ケアプランにもとずき排泄介助を行い記録に残す等排泄パターンの把握に努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせ入浴できる体制をとっている泊まりの入浴準備の不足や行事等で入浴日を職員側で決めてしまう事がある。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのペースや生活リズムに配慮しゆっくりと休息できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事作業や作業レクリエーションの提供により楽しく張り合いがもてるように支援している。天候や季節にあわせてドライブ等で楽しみ、気分転換が出来るように活動している。		利用者の「やりたい事張り合い」を今以上に引き出せるように取り組んでいきたい。ドライブ以外の楽しみを行事計画にあげてか活気のある場所にしたい。
60	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向や能力に合わせ金銭管理が自分でされる方はご家族にも協力を得ながら適切な支援をしている。(ほとんどお金を所持される方はいない)		外出レクリエーションの行事のときなどは家族の了解、協力を得ながら買い物が出るようにも支援したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は庭や隣接施設の中庭に散歩に出かけたり畑したり、ドライブにでかけたりその人に合わせた支援を行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクリエーション等職員側からの場所の提供はあるがその他は要望ないため行っていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に添って対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どなたでも気軽に訪問できる環境作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、言語による拘束がないようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に居室やホールや玄関は施錠はしてなく開放的にしてある。(戸締りとしての鍵かけはおこなっている)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は宿直当番を配置し緊急時に対応出来るようにしている。日中、家族不在で訪問要請のある利用者様には希望の時間に訪問し安全確認につとめている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫時などの針や包丁については職員が見守り気をつけている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や事故対策委員が中心となり事故報告に対して対応、検討、評価しながら職員全員カンファレンスを行っているが個別の対応、介助方法が統一されていない所も上がってくる。		会議の場や勉強会の場で今後も知識を学び一人ひとりの事故防止につなげて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	バックアップ施設の看護師が兼務で中心になり対応しているが個々の判断能力や対応についてはまだ難しい職員もいる。		さまざまな場面での遭遇を考えながら訓練、勉強していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練がまだ1度しか行えていない。		さまざまな場面を想定しながら職員だけでも月に1度は定期的に行いたい。夜間帯の想定も大切である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	申し送りやバイタルチェック表等にて職員間で情報を共有し対応している。当日勤務の看護師に連絡し指示を頂いたり相談したりと連携がとれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調変化の時は勤務職員内で情報を共有し対応した中で看護師の判断が必要な時は指示を仰ぐ		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については必要性については理解しているが副作用については理解が不十分である。服薬する時は何度も確認しながら間違わないように注意しながら行っている。又服薬準備は家族管理となっており、薬袋に持たせてもらっている。		個別の薬の理解を深められるように看護面から説明、研修が必要である。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を促し食事野菜中心の献立になっている。また天候のよい時は外出し出来ない場合は軽体操をおこなっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	協力医療機関の歯科医院が定期的に来て下さり利用者の診察、職員指導をして下さる。毎食後は歯磨き、口腔ケアを行っている。昼食前には口腔の体操や声をだしてもらったり舌を出したりと体操してから食事を取るようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのペースや生活リズムに配慮しゆっくりと休息できるように支援している。摂取量をチェック表に記入し分かるようにしている。若干嫌いなものや苦手な食材であれば別ものを提供している。その人に合わせた食事形態にしている。		栄養管理士から定期的に献立の確認や指導、アドバイスを受けバランスの良い食事を提供していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者は通いに来られた時は来てすぐにうがい、手洗いをし感染予防に努めている。夜勤帯にトイレ、台所はもちろん施設内消毒液で毎日拭く。手すり、椅子、ベット柵等手の触る所を毎日消毒液にて拭いて予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食洗機を使い食器等を高熱殺菌している。床の消毒は毎晩しまな板、ふきんなども毎晩消毒実施。食材の仕入れはこまめに行い新鮮さを大切にしている。職員は毎月検便検査実施。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節感を感じてもらえるように工夫をし外には花を植えたり明るい雰囲気を出してはいるがなかなか近隣の方は来てくれない。		運営会議にも意見をいただきながら少しずつでも近隣に顔を出して羞恥していきたい。又季節に合わせた作品展示をしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり花の写真を飾ったり家庭的な雰囲気作りだし居心地良くなるよう努めてます。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの続きに和室をもうけ昼寝したりちゃぶ台を置いたりしてご利用者同士がなじめるような雰囲気作りをしている。		外の庭にもベンチ、テーブルを置いてのんびりとした空間や外庭での楽しみや地域との関わりのスペースを作って行きたい。(計画中)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族様の意向に対応しベットや布団を使い分けている。ポータブルトイレに位置をご自宅と同じようにするなどの工夫もしている		ご自宅でL字バーを使用されている方がいるので不安なく起立動作が行えるよう支援して行きたい。(L時バーの購入、介助方法の統一)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	加湿器などを置いたり必要に応じて外からの空気入れ替えしたり換気の工夫をしている。アロマスプレーで感染予防に心がけている		トイレがホールと近い為排便時の臭いが気になるため除菌スプレーやアロマスプレーにて対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や高さも使いやすい高さとなっている。浴室内、トイレにも使いやすいように手すりが設置されている。		車イス使用时入り口が狭い。脱衣所に手すり等の工夫が必要(身体機能を生かした着脱介助に努めたい)トイレにオシレットが欲しい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々にあった作業を提供し混乱しないようにその都度説明している。見守りが必要な場合はそばにいて対応しながら声掛けをしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日はウッドデッキやベンチ、駐車場でおやつや食事を楽しんでいる。庭の草取りや、野菜、木の実の収穫等ご利用者様と一緒にしている。		全員で食事の際テーブル、椅子のセッティングに時間がかかり検討必要。又外庭にテーブルと椅子を設置の予定

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

365日24時間の受け入れを万全に努めている。利用者や家族の方が来訪した時に楽しんで頂けるように玄関等に季節の展示物や花・写真パネル等を飾っている。いろんな面で家庭的な雰囲気作りに努めている。ご利用者様方々が楽しんで過ごせるような行事計画を立てている。利用者の方が家の中だけではなく外に出て気分を変えられるように行事計画。訪問においては利用者はもちろん、家族への気配りを大切にしたい。安全を第一に考え家族的で安心して楽しんで過ごせる環境作りに努めている。職員と利用者様がなじみの関係になり利用者はもちろん職員にとっても第二の我が家となるように日々努力しています。自然環境(海、山)が整っており天気の良い日はミニドライブへと出かけている。併設のグループホームとの共同での行事計画。畑、地域でとれた野菜をつかったおいしい食事を提供。ランチョマットを敷いたりして家庭的な雰囲気、家庭と変わらない食器類を配膳。地域密着である乙のどっこん水を汲みに利用者様と行ってしその水でお茶を沸かしたりお米を炊いたりしている。協力医療歯科医院と連携をとりながら、口腔ケアや定期的に検診をおこなったりアドバイスいただいています。